歯周疾患患者にみられた全身疾患の統計学的観察

松丸健三郎　梁川輝行　桜田光男
高谷直伸　横藤英夫　菅原教修
岩手医科大学歯学部歯科保存学第2講座
（主任：上野和之教授）

（受付：1990年10月8日）

抄録：本研究は，40～78歳の302名の歯周疾患患者記録を調査し，患者の全身疾患の頻度，種類と年齢群（40～49，50～59，60～78）との関係を明らかにするためにおこなわれ，以下の結果を得た。現疾患では，循環器系（特に高血圧）はどの年齢群でももっとも多くみとめられ，既往疾患では，消化器系が，40歳代と60歳以上で，泌尿・生殖器系が50歳代でもっとも多くみとめられた。現疾患と既往疾患とをまとめてみると，循環器系と消化器系はどの年齢群でも高率に，一方泌尿・生殖器系疾患は50歳代で，呼吸器系は60歳以上でそれぞれ高率にみとめられた。現疾患を有する患者数は加齢的に増加し，全身疾患の既往歴もなく，現在も罹患のみられない患者数は，加齢的に減少していた。2つ以上の全身疾患（現疾患および既往疾患を含む）に罹患する者の割合は加齢的に増加していた。

Key words：systemic disorder, periodontal disease, statistical observation

緒　言

近年，平均寿命の延長と社会環境の複雑化にともない，なんらかの全身疾患に罹患する者の割合が，加齢とともに増加していると言われている[1-4]。一方，歯の保存に対する価値観は年齢とともに増大し，高年齢者に対しても広範囲な歯周治療が要求されるようになってきている。主要臓器は高齢になるにつれ，外来ストレスに対し許容範囲が狭くなってくると言われ[4]，歯周処置を行うに際し，全身疾患の既往歴（既往疾患）および現在の罹患状態（現疾患）の把握がより重要になってきているものと考えられる。しかしながら，歯周疾患患者の全身疾患罹患状態についての報告[5-7]は少なく，しかも年齢と全身疾患の種類や頻度との関係についてふれた報告はみられない。

今回，我々は岩手医科大学歯学部付属病院第2保存科外来に歯周疾患に関連する症状を主訴として訪れた新来患者について，全身疾患の既往歴及び現在の罹患状態を調査し，若干の知見が得られたので報告する。

資料および研究方法

1986年1月から1987年12月までの2年間に，岩手医科大学歯学部付属病院予診室より第

Statistical observation on the systemic disorders in patients with periodontal disease.
Kensaburo MATSUMARU, Teruyuki YANAGAWA, Mituo SAKURADA, Naonobu TAKAYA, Hideo YOKOFUJI and Mitinobu SUGAWARA
(Department of Periodontology, School of Dentistry, Iwate Medical University, Morioka, Iwate 020)
岩手県盛岡市中央通り1丁目3－27（〒020）

2保存科に歯周疾患に関連する症状を主訴として訪れた新来患者445名中，40歳以上の302名を調査対象とした。これらの患者について問診等による全身疾患の既往歴および現在の罹患状態の調査から，疾患の種類と頻度および年齢との関係について検索を試みた。

全身疾患としては，呼吸器系，循環器系，精神・神経系（脳神経系疾患を含む），消化器系（肝臓および胆嚢疾患を含む），泌尿・生殖器系，代謝系，筋・関節・骨系，内分泌系，血液疾患の9項目とその他（耳鼻咽喉科や眼科疾患等）の計10項目に分類した。

結　　果

第2保存科新来患者の年代別割合を示したものがTable 1である。各年代に占める来院患者の割合は，40歳代から50歳代で，39.4%～42.7%と増加し，60歳以上では17.9%と減少していた。

40歳代の119名についてみると（Table 2），現在の罹患疾患（現疾患と呼ぶ）としては，循環器系の罹患率が特に高く，35.5%を占め，以下，筋・関節・骨系（15.5%），消化器系（11.1%）が10%以上を占めていた。既往疾患では，消化器系（21.9%），泌尿・生殖器系（10.4%）が高いが，循環器系は8.3%にすぎなかった。現疾患と既往疾患とをまとめてみると，罹患率は消化器系（18.4%）と循環器系（17.0%）が高く上位を占めていた。50歳代の129名についてみると（Table 3），現疾患としては，循環器系の罹患率は，40歳代と比較して増加して40.5%を占めていた。40歳代で10%以上を占めていた筋・関節・骨系，消化器系の罹患率は50歳代では減少傾向を示したが，精神・神経系や代謝疾患のそれは増加傾向を示した。既往疾患では，泌尿・生殖器系（19.9%）と消化器系（14.5%）の罹患率が高くいずれも上位を占めていたが，40歳代と比較して罹患率は前者は増加傾向を，後者は減少傾向を示した。循環器系の罹患率は40歳代とほぼ同じ8.4%にすぎなかった。現疾患と既往疾患とをまとめてみると，循環器系（20.5%），泌尿・生殖器系（14.8%）および消化器系（12.4%）の罹患率は高く，いづれも上位を占めていたが，40歳代と比較して循環器系と泌尿・生殖器系の罹患率は増加傾向を示した。特に泌尿・生殖器系のそれは顕著であった。一方，消化器系の罹患率は減少傾向を示した。60歳以上の54名についてみると（Table 4），現疾患としては，罹患率では循環器系が30.4%を占め，以下，消化器系（16.9%），代謝疾患（15.3%）および精神・神経系（10.2%）であった。循環器系の罹患率は40歳代および50歳代で増加傾向を示したが，60歳代では40歳代の比率と比較してさらに減少傾向を示した。消化器系の罹患率は50歳代で一時減少傾向を示したが，60歳以上では40歳代の比率よりさらに増加傾向を示した。代謝疾患と精神・神経系の罹患率は40歳代，50歳代に続き60歳以上でも増加傾向を示した。既往疾患の，罹患率では消化器系（20.7%），呼吸器系（17.1%）および泌尿・生殖器系（11.0%）が上位を占めていた。消化器系と呼吸器系の罹患率は50歳代で減少傾向を示したが，60歳以上では増加傾向を示した。泌尿・生殖器系のそれは50歳代より減少傾向を示した。現疾患と既往疾患とをまとめてみると，罹患率では，消化器系（19.2%），循環器系（17.0%）および呼吸器系（12.1%）が上位を占めていた。消化器系と呼吸器系のそれは50歳代で減少傾向を示したが，60歳以上では増加傾向を示した。循環器系では50歳代で増加傾向が認められたが，60歳以上では減少傾向を示した。

なお『その他』の項目が高率で認められたが，その大部分を口腔関連の耳鼻咽喉科疾患が占め

Table 1 Number/percent of patients examined by age groups. (over 40 years old)

Age group	Number	Percent
40～49	119	39.4
50～59	129	42.7
60～78	54	17.9
Totals	302	100

Table 2 Number/percent of present and past diseases in 119 patients in the 40 ～ 49 age group.

Systemic conditions	Number of present illness (percent)	Number of past illness (percent)	Total (percent)
Respiratory	0	7 (7.3)	7 (5.0)
pneumonia	0	1	
bronchial asthma	0	1	
tuberculosis	0	4	
others	0	1	
Cardiovascular	16 (35.5)	8 (8.3)	24 (17.0)
hypertension	9	4	
hypotension	0	1	
heart disease	5	3	
others	2	0	
Neuropsychiatric (cerebral nervous disease included)	2 (4.4)	2 (2.1)	4 (2.8)
manic-depressive	0	0	
vegetative neurosis	2	2	
cerebrovascular disease	0	0	
others	0	0	
Digestive	5 (11.1)	21 (21.9)	26 (18.4)
ulcer of stomach and duodenum	1	6	
hepatitis	3	7	
cholecystopathie	0	3	
others	1	5	
Genitourinary	3 (6.7)	10 (10.4)	13 (9.2)
nephritis	1	3	
genital disease	2	7	
others	0	0	
Metabolic disease	3 (6.7)	1 (1.0)	4 (2.8)
diabetes mellitus	2	1	
gout	1	0	
others	0	0	
Muscle, joint and bone	7 (15.5)	3 (3.1)	10 (7.1)
rheumatism	1	0	
others	6	3	
Endocrine	3 (6.7)	0	3 (2.1)
Hematologic	1 (2.2)	6 (6.3)	7 (5.0)
anemia	0	6	
others	1	0	
Others	5 (11.1)	38 (39.6)	43 (30.5)
otologic	1	31	
opthalmic	1	1	
others	3	6	
Totals	45	96	141 (100)

Table 3 Number/percent of present and past diseases in 129 patients in the 50 ～ 59 age group.

Systemic conditions	Number of present illness (percent)	Number of past illness (percent)	Total (percent)
Respiratory	0	8 (6.1)	8 (3.8)
pneumonia	0	1	
bronchial asthma	0	1	
tuberculosis	0	6	
others	0	0	
Cardiovascular	32 (40.5)	11 (8.4)	43 (20.5)
hypertension	24	4	
hypotension	0	3	
heart disease	7	3	
others	1	1	
Neuropsychiatric (cerebral nervous disease included)	7 (8.9)	7 (5.3)	14 (6.7)
manic-depressive	1	0	
vegetative neurosis	1	5	
cerebrovascular disease	3	1	
others	2	1	
Digestive	7 (8.9)	19 (14.5)	26 (12.4)
ulcer of stomach and duodenum	3	4	
hepatitis	1	7	
cholecystopathie	1	2	
others	2	6	
Genitourinary	5 (6.3)	26 (19.9)	31 (14.8)
nephritis	4	9	
genital disease	1	17	
others	0	0	
Metabolic disease	7 (8.9)	5 (3.8)	12 (5.7)
diabetes mellitus	7	4	
gout	0	0	
others	0	1	
Muscle, joint and bone	5 (6.3)	7 (5.3)	12 (5.7)
rheumatism	2	0	
others	3	7	
Endocrine	3 (3.8)	6 (4.6)	9 (4.3)
Hematologic	1 (1.3)	4 (3.1)	5 (2.40)
anemia	1	3	
others	0	1	
Others	12 (15.2)	38 (29.0)	50 (23.7)
otologic	4	26	
opthalmic	5	6	
others	3	6	
Totals	79	131	210 (100)

Table 4 Number/percent of present and past diseases in 54 patients in the 60 ～ 78 age group.

Systemic conditions	Number of present illness (percent)	Number of past illness (percent)	Total (percent)
Respiratory	3 (5.1)	14 (17.1)	17 (12.1)
pneumonia	0	5	
bronchial asthma	2	1	
tuberculosis	1	4	
others	0	4	
Cardiovascular	18 (30.4)	6 (7.3)	24 (17.0)
hypertension	12	3	
hypotension	0	1	
heart disease	4	0	
others	2	2	
Neuropsychiatric (cerebral nervous disease included)	6 (10.2)	4 (4.9)	10 (7.1)
manic-depressive	1	0	
vegetative neurosis	2	3	
cerebrovascular disease	3	1	
others	0	0	
Digestive	10 (16.9)	17 (20.7)	27 (19.2)
ulcer of stomach and duodenum	1	2	
hepatitis	5	3	
cholecystopathie	0	6	
others	4	6	
Genitourinary	1 (1.7)	9 (11.0)	10 (7.1)
nephritis	1	4	
genital disease	0	3	
others	0	2	
Metabolic disease	9 (15.3)	1 (1.2)	10 (7.1)
diabetes mellitus	7	1	
gout	2	0	
others	0	0	
Muscle, joint and bone	2 (3.4)	6 (7.3)	8 (5.7)
rheumatism	0	0	
others	2	6	
Endocrine	0	2 (2.4)	2 (1.4)
Hematologic	2 (3.4)	4 (4.9)	6 (4.3)
anemia	1	3	
others	1	1	
Others	8 (13.6)	19 (23.2)	27 (19.0)
otologic	4	11	
opthalmic	4	1	
others	0	7	
Totals	59	82	141 (100)

Table 5 Number/percent of patients with present illness by age groups.

Age group	Total Patients	Patients with Present illness	Percent
40～49	119	34	28.6
50～59	129	58	45.0
60～78	54	34	63.0
Totals	302	126	41.7

Table 6 Number/percent of patients free from disease both in the past and at present by age groups.

Age group	Total Patients	Patients free from diseases	Percent
40～49	119	37	31.1
50～59	129	27	20.9
60～78	54	6	11.1
Totals	302	70	23.2

Table 7 Number/percent of patients in the 40～49 age group with one and more systemic conditions including present and past illness.

Number of illness	with present illness only	with present and past illness	with past illness only	Total (percent)
one	13	0	31	44 (53.7)
two	2	8	12	22 (26.8)
three and over	1	10	5	16 (19.5)
Totals	16	18	48	82

Table 8 Number/percent of patients in the 50～59 age group with one and more systemic conditions including present and past illness.

Number of illness	with present illness only	with present and past illness	with past illness only	Total (percent)
one	17	0	22	39 (38.2)
two	2	31	2	35 (34.3)
three and over	7	13	8	28 (27.5)
Totals	26	44	32	102

Table 9 Number/percent of patients in the 50～78 age group with one and more systemic conditions including present and past illness.

Number of illness	with present illness only	with present and past illness	with past illness only	Total (percent)
one	6	0	6	12 (25)
two	4	6	3	13 (27.2)
three and over	1	17	5	23 (47.9)
Totals	11	23	14	48

ていた。そこで，この項目の数値は参考にとどめて，順位からは除外している。

なんらかの全身疾患に罹患し、現在入院もしくは通院している患者126名の，来院患者302名に占める割合を年代別に示したものがTable 5である。年代が高くにるにつれ，現疾患を有する患者の割合は増加し，60歳以上では，来院患者の63%に達していた。

全身疾患の既往歴もなく，また現在も罹患のみられない患者70名の，来院患者302名に占める割合を年代別に示したものが，Table 6である。年代が高くなるにつれ，この割合は減少し，60歳以上では11.1%にしかすぎなかった。

40歳代における患者の有する全身疾患罹患数の頻度についてみると，罹患数1の患者の占める割合は53.7%であるのに対し，罹患数2で

は26.8%，3以上では19.5%と，罹患数の増加に反比例していた（Table 7）。また，50歳代でも（Table 8），罹患数1では38.2%，2では34.3%，3では27.5%と，40歳代と同様に全身疾患罹患数の頻度は罹患数の増加に反比例する傾向を示した。60歳以上では（Table 9），罹患数1では25%，2では27.1%，3以上では47.9%と，罹患数1を有するものの割合は減少し，逆に2や3以上を有するものの割合は増加していた。つまり，60歳以上では40歳代や50歳代とは異なり，全身疾患罹患数の頻度は罹患数の増加に比例する傾向を示していた。

考　　察

岩手医科大学付属病院歯学部第2保存科新来患者のうち，50歳代と60歳以上の患者数の総数に対する割合は，他の年代に比べて増加が著しいとうことが今回の調査結果で明らかになった。このような50歳以上の患者の増加傾向については，我々[8-11]および小川と戸塚[12]はこれまでの統計的観察で報告してきた。65歳以上の老年人口の推移からみても，今後歯科受診患者数に占める老年者の比率はますます増えることが予想される[13]。

全身的疾患の種類と年代との関係については，現疾患では，循環器系はどの年代でも一番多く，つづいて消化器系である。その他，40歳代では，筋・関節・骨系が第二位を占め，50歳代では代謝系，精神・神経系は消化器系と並び，60歳以上ではそれぞれ第3位と第4位になっている。本谷[14]は，岩手医科大学付属病院歯科外来患者のうち全身疾患を有する514名についての歯槽膿漏症有病者率での調査で，循環器系疾患罹患者の歯槽膿漏症罹患率は，他の全身罹患患者のそれよりも40歳以上で高く，40歳代で71.5%を，60歳以上では91.0%に達している事を報告している。つまり，歯槽膿漏症罹患者の循環器系疾患罹患率は，他の全身疾患に比較して罹患率が40歳代以上で高率であることをしめしているといえよう。Nery ら[7]は，歯周疾患罹患者の全身疾患について歯科医院，大学の歯学部歯周治療科，メヂカル・センターの3カ所で20～90歳の合計581名を調査し，全身疾患のうち39.0%が循環器系であると述べ，また歯周治療を必要とする現役および退役軍人391名（19～60歳以上）についての陸軍病院での全身状態の調査でBrasher と Rees[5]は薬物過敏症が30.3%で第一位，血液疾患・血管系が23.1%であると述べているが，年齢との関連性についてはふれていない。一方，歯学部口腔外科や医科大学口腔外科の外来を訪れた患者についてみると，東海大学病院口腔外科外来患者のうち全身疾患を有する40歳以上968名についての調査[2]や川島[3]による，東京歯科大学市川病院オーラルメディスン科に来院した患者のうち全身疾患を有する乳幼児から老齢者の510例についての調査，さらに大井ら[17]の長崎大学第2口腔外科外来での調査においても，40歳代以上では，いずれの年代でも循環器系が第一位を占めていた。また，織田ら[18]は，7つの歯科診療所に来院した患者のうち，全身疾患罹患者4,286人について調査し，40歳代から循環器系疾患が，ついて消化器系が増加するとのべている。これらの報告は，いずれも我々の結果と一致している。循環器系疾患が40歳代以降で，高率に認められていることは，人口1万人当たりの循環器系疾患の推計所有患者数がこの年代から急激に増加する[2]ことのほかに，厚生省「国民健康調査」[19]による，年齢階級別にみた有病率でも45歳以上で循環器系が第一位を占めているという報告からもうかがえる。一方，針谷ら[15]は，東京医科大学病院口腔外科外来患者のうち，全身疾患を有する1331名についての調査では，循環器系は60歳以上に多く，60歳未満では，消化器系が一番多いと述べている。これは，我々の調査結果と異なっていた。この理由としては，彼らは，年代区分を60歳以上と59歳以下に分けており，我々の様に59歳以下を50歳代および40歳代と細分していないためではないかとも考えられる。次に，高齢者（60歳以上）の主要な全身疾患罹患状態についてみると，最も多いのは，前に述べた循環器系

疾患で，そのなかでも高血圧症が約半数以上を占めている事はこれまで多数の人によって報告されている。[1-3,12,15,16] その他，今回の調査で心疾患が4例に認められた。高血圧症の患者にたいしては，血圧を事前にコントロールし，無痛的に処置をおこなう事が大切であり[1,16]，さらに心疾患については，特に狭心症，心筋梗塞には留意する必要がある。消化器系では，肝疾患が5例と今回の調査で増加傾向を示していたが，胃潰瘍は，これまでの報告[15,16]とは異なり，今回の調査では多くは認められなかった。肝疾患については，針谷ら[15]は，我々と同様に高齢者には，高血圧症につづき多いと述べている。これは，高齢者では，，肝機能が通常よりかなり低下しているため，ウイルス，薬剤やガス麻酔剤などにより肝障害が発生しやすいためでないかと思われた。このような患者については，肝機能調査をおこない，術後の後出血，薬物障害や感染にたいする抵抗力の減弱などに注意する必要がある。代謝系では，糖尿病が増加していた。久野ら[1]，長畑と下里[16]および山根[21]も高齢者で糖尿病罹患者が多いと報告しているが，糖尿病は老年患者に多くみられる疾患の一つであると思われる[22]。糖尿病罹患者については，感染にたいする抵抗力が減弱し，創傷治癒が遅延し，動脈硬化にかかりやすくなるといわれている[20]。したがって，歯周手術などを行う場合には，糖尿病はコントロールされていることの他に，術中，術後にみられる低血糖性ショックにも注意することが必要である[1]。既往疾患についてみると，40歳代以降では，消化器系と泌尿・生殖器系が多いが，60歳以上では泌尿・生殖器系に代り，呼吸器系疾患が増加してくる。60歳以上では，消化器系では，胆嚢疾患が，呼吸器系では，肺炎が多く，結核はやや減少傾向を示した。山根[21]は，現在症状がみられなくても既往のある人が60歳以上の患者では64.2%もみられると報告しているが，加齢により再罹患しやすくなり，また逆にそのことが，既往疾患を持つ比率を高めることになるのではないかとも思われた。50歳代での婦人科疾患の増加は，内分泌系疾患が多いことと，来院患者に占める女性の比率が高いことも考えられた。

現疾患と既往疾患とを一つにまとめてみると，40歳代，50歳代では循環器系，消化器系および泌尿・生殖器系が多く認められるが，60歳代以上では，泌尿・生殖器系に代って呼吸器系疾患が増加してくるのが特徴である。小川ら[12]は，消化器系および，循環器系疾患が40歳代から増加傾向を示すと述べているが，これは，予診室より第二保存科にまわされる患者についてもいえることである。一方，呼吸器系については，小川ら[12]は，40歳代から増加傾向を示し，70歳以上で8%を示すとのべているが，今回の60歳以上での12%という結果とは頻度の点でやや低いのが特徴である。これは患者数の差とか，小川ら[12]は呼吸器系に我々の分類の様に結核を含めていないことなどが関係しているのかもしれない。

口腔疾患に関する主訴で来院した新来患者の全身状態についての調査は，ほとんどが歯学部口腔外科や医科大学口腔外科の外来を訪れた患者についての調査であり[1-3,15-17]，特に歯周疾患に関連する症状を主訴として来院した患者についての調査は少ない[5-7]。これらの報告は，いずれも現疾患についてのべたもので，今回のように現疾患のみならず既往疾患についてもあわせて疾患の種類や有病者率と年代との関係を報告しているものはない。

年代別にみた全身疾患有病者率については，40歳以上についてみると加齢的に増加傾向を示した。我々の科での調査では，40歳以上の有病者率は41.7%で，針谷ら[15]の医科大学口腔外科での63.05%，大井[17]の大学歯学部口腔外科での67.4% Brasher と Rees[5] の陸軍病院歯周治療での60.1%およびメディカル・センターの歯周治療科での85.7%より低い値を示していたが，川島[3]の大学病院オーラルメディスン科での18.0%や織田ら[18]の7歯科医院の36.4%，Nery ら[7]の歯科医院の33.3%よりは高い値を示していた。60歳以上の高齢者の有病者率については，長畑と下里[16]の大学歯学部口腔

外科での64.8%，久野ら[1]の大学歯学部口腔外科での57.3%および針谷ら[15]の66.6%は，我々の63.0%とほぼ近い値を示したが，Brasher とRees[5]の76.9%，Nery ら[7]の大学歯学部付属病院の74.0%，メディカル・センターの83.0%，大井ら[17]の77.2%よりは低い値であった。しかし，Nery ら[7]の歯科医院での55.9%，織田ら[18]の47.9%，川島[3]の16.9%よりはかなり高い値であった。久野ら[1]は，60歳以上で有病者率が増加傾向にあることについて，歯科大学口腔外科が，歯科医療の二次医療を担当することにあるが，医科大学口腔外科，総合病院口腔外科ではさらにこの傾向が強いものと考えられる，と述べている。Nery ら[7]は，3カ所の施設での歯周疾患患者の全身疾患についての調査で，歯科医院，大学歯学部付属病院，メディカル・センターで有病者率が異なる理由について，病院に診察を受けにくる患者の種類によるものとみている。つまり，入院するような患者は，歯の疾患よりは，全身疾患のために病院を訪れるので，歯科医院や大学病院より，メディカル・センターにいる患者の方が全身疾患を有する比率が高くなることになる。全身疾患を有する患者が，口腔疾患の治療のために，大学歯学部付属病院に紹介されて来院する経路としては，歯科医院，一般医院，総合病院，（歯科の併設がない）および大学医学部付属病院がある。そのような経路をたどって来院した患者に全身疾患を有しているものが多いのは当然である[17]。我々の科において，現疾患の有病者率が40歳代，50歳代より60歳以上で他大学の口腔外科や医科大学口腔外科に近いことは，大学歯学部付属病院に来院する患者は，高齢になるほど口腔疾患の種類に関係なく一人で多数の全身的問題を抱えているためといえよう。高齢患者の増大とあいまって，歯科受診率が高まれば，全身疾患を抱えている患者は口腔外科ばかりではなく，他科においても増加する傾向が今後とも助長されることはまちがいないと思われる。

年代別にみた現疾患の有病者1人平均の罹患数（現疾患の総数を有病者数で割って得られる）は，加齢的に増加傾向を示した。60歳以上では，今回の調査では，有病者1人平均の罹患数は，1.73であり，久野ら[1]の1.45，針谷ら[15]の1.50，長畑と下里[16]の1.18，大井ら[17]の1.03より高い値を示した。このことは，60歳以上の老年者では1人の患者が多くの疾患を同時にもっている[22]ことを示している。また既往疾患数は60歳以上では，一人平均2.2個で，現疾患と併せてみると一人平均2.9個で加齢的に増加していた。

また，現在まで通院経験や自覚症状も共にみられない者でも，加齢的になんらかの異常が発現する可能性が高い[23]といわれている。これらのことからしても，現在の罹患状態はもとより，既往歴も含めた全身状態の把握が，高齢者に対しては，とくに歯周治療をおこなう上でもより重要であると思われる。

結　　論

岩手医科大学付属病院歯学部第2保存科に予診室よりふりわけられた，40－78歳の302名の歯周疾患患者について，病歴等により，全身疾患の既往歴および現在の罹患状態の調査を行ない年齢群（40～49，50～59，60～78）と全身疾患の種類および頻度との関係について調査を行ない，以下の結果がえられた。

1　現疾患では，循環器系がどの年齢群においてももっとも多くみとめられ，既往疾患では，消化器系が40歳代と60歳代以上で，泌尿・生殖器系が50歳代でもっとも多くみとめられた。現疾患と既往疾患とをまとめてみると，循環器系と消化器系はどの年齢群でも高率に，一方泌尿・生殖器系疾患は50歳代で，呼吸器系は60歳以上でそれぞれ高率にみとめられた。

2　現疾患を有する患者数は加齢的に増加し，全身疾患の既往歴もなく，現在も罹患のみられない患者数は，加齢的に減少していた。

3　2つ以上の全身疾患（現疾患および既往患者を含む）に罹患する者の割合は，加齢的に増加していた。

本論文の要旨の一部は第89回秋季日本歯科保存学会（昭和63年11月12日，岐阜）にて発表した。

Abstract：This study was designed to review medical records of 302 patients with periodontal diseases (40 ～ 78-years-old) and evaluate the frequency and nature of systemic disorders in these patients by age-groups (40 ～ 49, 50 ～ 59, and 60 ～ 78). The results are as follows : In the present conditions, cardiovascular abnormalities are the most prevalent in any age group. In the past history of disease, digestive disorders were most frequent in the age groups in the forties and sixties to seventies, and genitourinary disorders were in the age group of fifties. When the past and present medical conditions were combined, the frequency of cardiovascular and digestive disorders was high in any age group, while that of genitourinary disorders and respiratoly ones were high in the group of fifties, and over sixties respectively. The number/percent of patients with present disease problems increased with age and those free from disease problems, at present as well as in the past, decreased with age. The number/percent of patients affected by more than two systemic disorders, including both the present and past illnesses increased with age.

文　　献

1）久野吉雄，柴田寛一，下里常弘，深谷昌彦：高齢化社会に対する歯科医療；日歯医師会誌，38，1193-1145，1986.
2）久野吉雄，道　健一，佐々木次郎，金子賢司：今日の歯科医療，口腔外科的疾患治療の指針；第1版，書林，東京，442，1983.
3）川島康：ライフサイクルと老年者歯科，老年者歯科，第1版，デンタルダイヤモンド，東京，35-38，1985.
4）成田令博：口腔症状と全身疾患；第1版，医歯薬出版，東京，121，1985.
5）Brasher, W, J., & Rsse, T.D.: Systemic conditions in the management of periodontal patients ; *J. Periodontol* 41：349-352，1970.
6）Rees, T. D.,& Brasher, W.J.: Incidece of certain systeic conditions among patients presenting for periodontal treatment ; *J. Periodontol* 45：669-671，1974.
7）Nery, E. B., Meister, F., Ellinger, R. F, Eslami, A. & McNara, T. J. : Prevalence of medical problems in periodontal patients obtained from three different populations; *J. Periodontol* 58：564-568，1987.
8）佐々木隆博，鈴木英夫，松丸健三郎：歯周疾患の統計的観察1．主訴からみた患者の実態について；日歯周誌，24：26-32，1972.
9）長田亮一，阿部忠一，村上弘行，牟田直竹，佐伯厚夫，渋井　発，松丸健三郎，上野和之，歯周疾患の統計的観察：主訴からみた患者の実態について；岩医大歯誌，6：78，1981.
10）松木健二，渡辺好郎，横藤英夫，中林良行，菅原教修，松丸健三郎，上野和之：歯周疾患の統計的観察，第2報：日歯周誌，27：671-672，1985.
11）小川光一，石井由美子，戸塚盛雄，長田亮一，松丸健三郎，上野和之：岩手医科大学歯学部付属病院における最近9年間の新来患者の臨床統計的観察；岩医大歯誌，10：149-160，1985.
12）小川光一，戸塚盛雄：歯科患者にみられた全身疾患の分類別，性・年代別各頻度の検討；口科誌，38：313-330，1989.
13）森　昌彦：老年者歯科医療の展望；歯科ジャーナル，10：547-553，1979.
14）本谷　昭，照井保之，菅野博之：全身疾患を有する者（全身病）の歯周病罹患状況について；日歯保之，12：89-93，1969.
15）針谷路美，西田紘一，豊浦宣行，西原茂昭，長谷川幸一，河村泰久，井田修司，小島　健，星山寿男，長田　寛，宮田秀美，久代秀郎，成田令博，内田安信：当科受診老齢患者についての臨床統計的観察；日口外誌，26：747-751，1980.
16）長畑　光，下里常弘：老齢者における口腔外科的疾患と全身合併症；歯学雑誌，3：91-96，1984.
17）大井久美子，藤木稔生，伊田和人，二宮秀則，小川昌子，荒木正弘，村上秀樹，伊東　弦，谷川明子，毛利元治，吉田真一，佐野和生，北村　晃，井口次夫：全身的疾患を有する当科受診患者についての臨床統計学的観察；口科誌，39：192-197，1990.
18）織田好孝，佐藤義彦，鈴木利夫，織田孝，小川一夫，平井清武，中里迪彦：予診表を分析して（第4報）；みちのく歯学誌，16：43-47，1985.
19）厚生省大蔵官房統計情報部：昭和60年国民健康調査；厚生統計協会，東京，204-205，1986.
20）Lindhe, J. : Textbook of Clinical Periodontology; 1 st ed. , Munksgaard, Copenhagen, 363, 1983.
21）山根源之：老年患者の診かた；歯科ジャーナル，27：248-252，1988.
22）上田　裕：歯科外来の老年患者と全身患者－大阪歯科大学付属病院歯科麻酔科外来における9年間の統計－；日歯麻誌，17：621-630，1989.
23）村地悌二：日本の老齢者の実態；ホルモンと臨床，17：803-808，1969.